

単元名

「〇〇〇しよう」

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力
他者とかかわる力 社会貢献力 自己形成力

① 単元について

本校が育成を目指す資質・能力のうち、本単元で育成・評価するものを記載する。
(※該当しないものは削除してください)

- 1 単元観
本単元は、

この単元について、学習指導要領の位置づけや学習内容、目標、また他学年との系統やつながりを具体的に記述する。

- 2 生徒観

この単元に関する、これまでの既習事項やその定着状況を、前単元までの評価、事前テスト、アンケート結果などで分析し、生徒の現状や課題を具体的に記述する。

- 3 指導観
指導にあたっては、

生徒の学習状況を踏まえて、本単元で確実に基礎・基本を身につけさせるため、学習展開や指導方法の工夫、評価の進め方、指導のポイントなどを具体的に記述する。

② 単元の目標と身に付けさせたい力について

1 単元の目標

- (1) 学習指導要領に示された目標を踏まえて、
 (2) 本単元での到達目標を具体的に記述する。
 (3)

観点の表記は、各教科の観点に合わせて修正する。

2 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 見方や考え方	ウ 技能	エ 知識・理解
<p>生徒がどのような学習状況であれば、単元目標が達成できたと判断するのか、その拠り所となる規準を、年間計画に基づいて観点ごとに簡潔に記述する。</p> <p>※各時における具体的な評価規準は、単元計画で示す</p> <p>※評価規準については、国立教育政策研究所HPの“<u>評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料</u>”も参考にする。</p>			

3 本単元で育成を目指す資質・能力

(1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力	特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知 ①自ら学習したことを自ら語る力（知の構造化）	○
思考力・判断力・表現力	思 ①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	○
	②よりよい解決のため	○
	③自分の考えを相手に	○
主体的に学ぶ力	主 ①自ら課題を見いだす力	○
他者とのかかわる力	他 ①他者と協力（協働）し、課題を解決しようとする力	○
	②他者とのかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
社会貢献力	社 ①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自 ①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
	②自信を持つ力	—

本校で身に付けさせたい資質・能力を本単元で育成し評価ができるかどうかを“○”“—”で記載する。

(2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知—①	
思—①	
思—②	
思—③	
主—①	
他—①	
他—②	

この単元で育成することのできる資質・能力について、**教科として具体的**どのような場面でのような手だてを講じるのかを説明する。
 ※年間指導計画を踏まえる。
 ※教科構想シートを踏まえる。

③ 単元計画

1 単元の全体像（Ⅰ：学習内容、Ⅱ：学習活動、Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ○○を、Ⅱ△△
Ⅲ□□のような力

①「単元について」と②「単元の目標と身に付けさせたい力について」で整理したことを踏まえ、単元全体をどのように捉えているのかを、上記のⅠ～Ⅲの視点を踏まえ文章で説明する。

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
あなたは、○○です。	A

単元の終末において、生徒に臨む姿や生徒たちにどのような力を身に付けさせたいのかを想定し、それを見取るためのパフォーマンス課題と評価基準（ルーブリック）を作成する。

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	○本時のめあて ●学習内容	評 価					
			関	考	技	知	評価基準 (評価方法) 【資質・能力】	※評価基準のゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
課題の設定	1							
情報の収集	2	「課題発見・解決学習」の6つの過程のどの段階にあたるのかが分かるようにする。※教科構想シートも参考にする。	◎					
整理								

「単元の目標と身に付けさせたい力」をもとに評価基準を具体的に文章表記で記載する。
文章中に本校が育成する資質・能力を評価する部分については、ゴシック体で表記する。
※毎時間本校が育成する資質・能力の評価をする必要はありません
※1時に2つ以上の評価を行う場合は、評価の欄を点線で区切る。

○…評価基準に照らして、「おおむね満足できる」状況（B）であるかどうかを把握し、「努力を要する」状況（C）になりそうな生徒に対して、適切な指導を行うとともに、「十分満足できる」状況（A）にあると判断できる生徒を把握し、必要に応じて単元における総括の資料とする。→必ずしも生徒全員を対象としていない
(机間指導や観察、ノートなど)

◎…評価基準に照らして、「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）のいずれかを判断し、把握することを意味するもので、単元における総括の資料とする。→生徒全員を対象として必ず一人1回は評価する場面
(机間指導や観察、ノートや小テストの回収・点検)

(※教科の特性に応じて、◎または○の表記のみでも可)

振り返り	6	本時は太枠で囲む。 ※1.5pt ※学習内容の後に“【本時】”と入れる。						
------	---	--	--	--	--	--	--	--

④ 本時の学習

1 本時の目標
○○○

※③単元計画の「3 学習内容と評価の計画」とリンクさせる。
 ※④本時の学習の「4 学習展開」の評価規準と同じ文章にする。
 ※右の評価基準は各段階を文章で示す。

2 本時の評価

評価規準	評価基準
(評価方法) 【資質・能力】	A
	B
	C

3 準備物
○○○

本時が、「課題発見・解決学習」の6つの過程のうちどの過程にあたるのかを選択し□で囲む。

4 学習展開 (○限目/△)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	[実行]	振り返り
	学 習 活 動		指導上の留意点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】
導入 (○分)			【本時のめあて】			
展開 (○分)	(J)…じっくり考える) (H)…はっきり表現する) (K)…くり返し挑戦する)		本時のめあてを記載する。 ※めあてには、この“額縁” タイプを使用する			(評価方法) 【資質・能力】
まとめ (○分)			設定時間も含め導入・展開・ まとめの流れが分かるよう にする。			